

外務大臣賞

「さとうきび畑の唄」

キム シンエ (金 信愛)

Ms. KIM Shin-ae

(韓国・大学生・琉球大学)

韓国の大学で日本文学を専攻。現在大学を休学して日本語・日本文化研修生として琉球大学で学んでいる。将来は日本で韓国語を教えたい。



ざわわ ざわわ ざわわ 広いさとうきび畑は
ざわわ ざわわ ざわわ 風が通りぬけるだけ

昨年、9月に放送され、多くの人に感動を与えた「さとうきび畑の唄」というドラマを覚えていますか。このドラマでは沖縄戦を背景に、苦しい日々を送りながらも、希望の光を失わない家族の様子が描かれています。

私はそのドラマを見て、涙が止まりませんでした。火薬のにおいが立ち籠める血に染まった戦場を見つめる主人公の涙ぐんだ目を見た瞬間、その主人公とある人のことが重なって思えたからなのです。その人は明石家さんまさんのようにみんなを笑わせるような面白い人でもなかったし、黒木瞳のようにかわいい妻と駆け落ちして沖縄に住みついた人でもありませんでした。

その人は17歳の妻を一人残して沖縄に連れて来られ、日本軍のために働かされたのです。そうです。彼は朝鮮人軍夫だったのです。朝鮮人軍夫というのは、戦争中、朝鮮半島から日本に強制的に連れて来られた労働者のことを言います。

彼が日本軍に連れて行かれたのは結婚してわずか1年後の1943年の夏のことでした。先が見えない長い航海の末、彼が着いた所は沖縄。そこで課された仕事は武器、砲弾、食料など、重い荷物を運ぶ重労働でした。暑い沖縄での仕事はあまりにも過酷で苦しく、このままでは死んでしまうと思ったほどでした。

食事は与えられず、畑で掘ってきた芋などを食べていました。そんなある日、彼は盲腸になりましたが、苦痛を訴えてもすぐには治療してもらえず、結局、腹膜炎になってから、手術を受け、その後も痛みで苦しんだそうです。またある日、壕に避難していましたが、近くに爆弾が落ち、たくさんの方が死んでしまいました。それで驚いて、壕から飛び出して逃げました。しばらくして落ち着くと、とても喉が渇いているのに気づきました。そこで草の露を受けて飲んだところ、その露の味がとても苦かったそうです。朝、起きて初めてその理由がわかりました。露だと思って飲んだのは、死んだ人の血だったのです。

想像を絶するほどの悲惨な洗淨で彼は生きるために、生き残るために精一杯歯を食いしばりました。戦争が終わった後も、彼は祖国の土を踏めませんでした。なぜなら、また米軍にハワイに連れて行かれて働かされたからなのです。そして、ようやく彼が家族のもとに戻ることは1947年のことでした。

九死に一生を得て帰ってきた彼は辛酸をなめながらも希望を失わず、新しく与えられた人生を歩きました。そして2002年5月、81年の旅路を全うしました。

彼はもうこの世にはいませんが、韓国には彼のことを心に刻んで生きている人たちがいます。それは、彼の息子、娘、そして、孫たちです。実は私もその孫の一人です。

母から祖父の戦争中の話を聞いた時、祖父にこんなひどいことをした人たちは、絶対赦せない悔しい気持ちになりました。ところが、本当に不思議なことに今、私は祖父が苦しみを受けた沖縄に導かれ、留学しています。今も時々、私が歩いているこの道のどこかで60年前、祖父は重い荷物を背負って、血と汗と涙を流したんだと思うと、とても心が痛くなります。しかし、そのたび、私は祖父の言葉を思い出します。それは、私が沖縄に来る前に祖父が私に言ってくれた一言です。

「沖縄はいい所だよ。」

そうです。祖父はすでに全てのことを赦し、沖縄の青い空を、青い海を愛していたそうです。私は沖縄に来てみて、戦争が残した心の傷や悲しみを抱えているのは韓国人だけではないということがわかってきました。沖縄戦の時、何人(なにじん)であろうと、その場にいたすべての人たちが心に深い傷を負ったのです。長い年月が必要だったと思いますが、そのことに祖父も気づいたのでしょう。

わたしの名前は、信愛(しんえ)と言います。漢字で「信じるの信、愛するの愛」と書きます。これは祖父が付けてくれた名前なのです。人を信じ、愛情を持って接することが大切だという祖父の教えが込められています。人を信じ、愛すれば、自ずとお互い歩み寄り、いつくしみ合う心も生まれるのだと思います。世界を平和に導くのは、人を信じる真心からの「愛」ではないでしょうか。今、世界は常に戦争の危機にさらされています。なぜ人間は争いを繰り返しているのでしょうか。醜い争いの後に残されるものは、夢や希望ではなく、空しさだけなのに。

目の前に広がる青々としたさとうきび畑を2度と血で染めないように、今を生きている私たちにできることは、まず、戦争がどんなに悲惨なものかを知ることだと思います。そして一人でも多くの人が、人間の命を奪い、生活を壊し、心を傷つける争いは、不毛だということに気づくことだと思います。さとうきび畑を風が通り抜ける葉ずれの音を悲しい唄にしていけないのです。この世界から争いが消え、世界の誰もが平和を感じ、愛であふれる日が訪れると私は信じます。また、そうなることを心から願ってやみません。